

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせた作成も可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ずA3片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

部門名： 2. 働き方改革実践部門
 エントリー名：岡山大学教育学部附属小学校 谷口智彦 (平成30年度第3回中堅教員研修)

活動名： 教務ってこんな事ができる 負担の軽減, 負担感の軽減への挑戦

解決すべき課題：勤務内容の負担超過と、勤務内容に対する負担感の増大
 大学附属校として「初等普通教育を施す」「先進的・実践的な教育研究を行う」「教育実習を行う」「地域貢献を行う」という4つの使命に伴う業務の多さに加え、公立一般校と同様、授業行為以外の諸業務を行う時間の短さが課題としてあげられる。また、「附属校教員としてどうあるべきか」という自他が課する無言のプレッシャーや、全職員が一同に会する職員室をもたず教科毎の準備室で執務する形態から、気軽に相談したり苦勞を分かち合(愚痴を言い合)ったりするような関わりが持ちにくいといった実情があり、不安や不満を解消することの難しさ、そこからもたらされる“負担感”が大きいという課題がある。研修で学んだ、「組織マネジメント」の側面から『負担軽減』に、「コーチング」「メンタルヘルスマネジメント」の側面から『負担感軽減』に取り組んだ。

目標・方針：教務主任という立場を最大限活かした施策を講じる。
 『負担軽減』の目標 …1日の日課の中に授業行為以外の諸業務に従事できる時間を新たに生み出すこと
 『負担感軽減』の目標…職員室が不安不満解消の場になること
 この目標に対して、教務主任の立場からその権限を活かして迫りたい。

活動内容： 『負担軽減』に対して …「放課後遊びの縮小・削減」「職員終礼の見直し」「放課後電話対応時刻の制限」「児童の登校時刻の見直し」の4項目の実施
 『負担感軽減』に対して…「おしゃべりタイムの設定」「相談事”や”成果報告”を引き出す関わりの実践」「平日を休もうプロジェクト」の3項目の実施
 ※本校は職員が一堂に会する職員室をもたず、各教科の研究室で執務する。職員室には副校長・教頭・教務主任が執務しており、そこに教員が相談や印刷、電話等をしにやってくるという特殊な職員室事情がある。

活動の成果：負担軽減については、まず毎日16時から30分程度設定していた「放課後遊び」を週1日に減じた。その上で週3回行っていた「終礼」を2回に減じ、16時から退庁時刻までの時間を終礼等で業務を中断させることなく従事できるようにした(週3日)。さらに「電話対応時間の制限」も加え、時間確保の施策が一層効果を発揮できるようにした。また、朝の児童昇降口の解錠時間を10分後退させ、トータルで実質40分の業務時間を生んだ上で、「毎日1時間早く帰ろう」と呼びかけたところ、想定した以上の勤務時間の縮減ができた。当然、校長等による教育実習内容の改変や研究業務の大幅な見直しなどの業務内容・量自体の削減の成果もあるが、本取組の効果も一定程度上がっていると思われる。負担感軽減については、「平日を休もうプロジェクト」の完全な実施に至ってないが、思い切って平日年休を取得した教員からは「他の休日より休んだ感じがする」と好評を得ている。児童が下校する16時以降には教務(教頭)としての業務を終え、職員室を訪れた教員に声をかけたり、相談を受けたりする時間(おしゃべりタイム)に充てた。コーチングの理論を意識した関わりで「スッキリした」「話せて楽しかった」と言って職員室をあとにする教員が増えたと感じている。

アピールポイント(アイデアや工夫)：7つの試みを実現した隠れた3つの工夫
 ・時間・時程を統括する教務の権限の活用。
 ・働き方改革は保護者の理解がなければ実現しない。PTAとも連携した保護者への打ち出しの工夫。
 ・放課後にしっかり同僚に関わるための、自己の業務フローの改善・改革。

